



《 北米産大豆 》

11/12年世界大豆生産予測、上方修正

アメリカ農務省がこのほどまとめた、11/12年度の世界の大豆生産高予測は、前回比0、1%増の2億5,891万トンに上方修正されました。これは、米国、アルゼンチンで前回から減少したものの、ブラジル、パラグアイが増加しているためです。

また、世界の大豆需給予測は生産高が上方修正、需要が下方修正されたことで、期末在庫は前回比0、9%増の6,356万トンに上方修正されました。

ASA主催、米国大豆品質会議

11月18日アメリカ大豆協会主催による「米国大豆品質展望コンファレンス」が開催され、参加して参りました。

2011年産アメリカ大豆の品質については、ミネソタ大学のネイブ教授から報告がありました。内容をまとめると、大豆の主産地である東コーンベルト地域及び中西部共に、作付時期に広範囲に渡る降雨があり、大幅に作付が遅れてしまったことにより、収穫も例年より遅れてしまいました。

そのような気象状況の影響から粒先は昨年産より若干大きめで、たんぱく質はアイオワ州やイリノイ州は低めで、ノースダコタ州などでは高いという特徴があるようです。

12年産米国産大豆・コーン作付面積は共に増加の見通し

米国の現地メディアはこのほど、来シーズンの米国産大豆・コーンの作付について、近年のコーンの連作によって、農家が思ったような単収を得ていないことから、従来大豆・コーンの輪作を行う動きが活発化するだろうと伝えています。

また、12年産米国産大豆・コーン共に増加するとの見解を示しています。

《 中国産大豆 》

11年産中国大豆状況報告

商社からの情報によりますと、中国産大豆の主産地である黒龍江省の2011年産大豆栽培面積は、前年度に比べて25%程減少しました。総生産高は685.6万トンの予想で、前年度と比べ約35%減少した模様です。

黒龍江省は春の大豆の作付け後、省内各地の気候条件は順調で、大豆の全体的な生長状況は比較的、良好に推移しました。しかし、8月に入った後、各地の降水にばらつきがあり、一部の地区には早魃が出て、大豆の成熟に影響が及びました。そのため石豆の比率は例年に比べて増加傾向とのことです。

また、中国大豆の価格については、中国政府が備蓄大豆の買付を開始したことや、中国国内の現物相場は底固く推移しているということもあり、農民は全く売り急いでいないのが現状です。そのため、今後の相場はじり高、或いは安定と読んでいます。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町 1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



《 国産大豆 》

23年産11月の落札状況

平成23年産国産大豆の11月の入札結果が、日本特産農産物協会から発表されました。それによると、上場数710.4トンで、落札が314.4トン、落札率が44.3%という結果となりました。第一回入札としては、比較的高い落札率でした。

特に、北海道大粒とよまさりの落札率は、91.7%、新潟大粒エンレイは、66.7%と高いものでした。

また、特定加工用大豆は、富山エンレイのみ上場されて、全量落札されました。

入札月	上場数量	落札数量	落札率
11月	710.4 t	314.4 t	44.3%

23年産集荷見込み

平成23年産国産大豆の入札販売計画が、日本特産農産物協会から通知されました。それによると、集荷予定数量は、18万449トン（前年よりも6,052トン増加）、入札販売予定数量は、5万9,855トン（前年よりも3万9,188トン増加）と計画されました。

また、前年よりも集荷量が、1,000トン以上増加する大豆は、秋田リュウホウ（2,360トン増加）、北海道ユキシズカ（1,780トン増加）、北海道とよまさり（1,445トン増加）、佐賀フクユタカ（1,354トン増加）、茨城タチナガハ（1,072トン増加）と見込まれます。

いっぽう、前年よりも集荷量が、1000トン以上減少する大豆は、愛知フクユタカ（1,979トン減少）と見込まれます。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町 1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>